

目標8 2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現 安全で豊かな社会を目指す台風制御研究

Project manager

筆保弘徳

横浜国立大学 先端科学高等研究院
台風科学技術研究センター長



代表機関

横浜国立大学

研究開発機関

名古屋大学、横浜国立大学、北海道大学、琉球大学、京都大学、東京大学、株式会社東京海上研究所、海洋研究開発機構

プロジェクト概要

本プロジェクトでは、気候変動に伴い激甚化が予想される台風を、防災インフラの有効範囲程度まで抑制する制御理論と要素技術を開発します。航空機、船舶、衛星での高精度観測と台風内部まで再現する数値モデル開発を行い、台風制御理論を確立します。災害予測と影響評価を行い、台風制御の社会受容性と合意形成の問題にも取り組みます。それにより、2050年には台風の脅威から解放された安全で豊かな社会の実現を目指します。

2032年のマイルストーン

ELSI 課題について合意・調整したうえで、台風制御に結びつく屋外実証実験を開始して、台風への介入手法の効果を確認します。介入効果が想定された範囲内であり、介入手法の安全性についても確認します。

2027年のマイルストーン

数値シミュレーション実験で、社会が受容可能な程度に台風被害を軽減する、実現可能な介入手法を特定します。特定された介入手法に基づき、制御装置の製作を開始します。

プロジェクト内の研究開発テーマ構成

